

松本遊園地完成

本町第四町内子供会では、かねてから子供たちの安全な遊び場造りを考えていました。この春町営住宅松本団地のそばに町有地約十五アール(約四五〇坪)を借りて整地し、子供たちの遊び場とする一方、町内有志の献金を募り遊具の設備を計画していたところ、たまたま県の共同基金会から地元熱意が認められ補助金十万円がもらえること



になって、総経費二十三万円です。スベリ台、フープジャンクル、メリーゴーラウンド、ブランコ鉄棒など、子供のよろこぶ遊具を完備して去る六月二日児童遊園地完成式を行いました。

この町内は通称馬場といわれる松林の中の至って静かな地域でしたが、四月十日から新国道の開通で昼も夜も大小のトラック、自動車が多いス

ピードで往来する交通劇甚道路に直面する地帯になってしまったのです。

よかった！松本遊園地はこれで一べんに存在価値を高めたわけです。父兄の方々も安心して子供たちを遊ばせておけるというものです。

(写真は完成した本町第四、松本児童遊園地)

中台老人クワの篤志

中台老人クラブでは昨年大総小学校へ竹帯三十三本を寄附しましたが、その後も会員たちが暇を見て作った雑巾八十枚と竹帯三十五本を、五月末役場に寄託して来ました。

主要道路の舗装と農道等の整備

本年度の町内道路の改修、舗装の予定は次の通りです。

町の単独事業として

- 横芝小へ上町旧国道 五〇〇米舗装
- 横芝小へ東町 二五〇米舗装
- 横芝中へ郵便局一〇〇米舗装

住民課ではその篤志を有りがたく頂戴し早速雑巾は各保育所に、帯は中学校に贈って、それぞれ清掃に役立ててもらうことにしました。

県の単独事業として

- 北清水地先四〇〇米改修舗装
- 坂田地先 二九七米舗装
- 寺方振子坂 四五〇米舗装
- 本町地先 二〇〇米排水溝
- 建設省の公共事業
- 小堤地先 五〇〇米舗装
- 栗山地先 四〇〇米舗装
- 屋形地先 二〇〇米舗装

このほか総武線の上町から横芝小学校に通ずる踏切を、現在の三米から六米へ拡張する工事が予定されています。

一方、中台、長倉、上町、本町、東町の農道、谷台、本町の農道橋の整備補修も実施されます。

ふる里の話題

大力無双の海保甲斐守 (-)

海保甲斐守は永禄十二年下総国主千葉介平胤富の執権職才であったので、海保、原、寺台城主の海保丹波守英氏の嫡男に生れ、通称を三吉と云った。体軀が非常に勝れて十三四才の頃から戦場に出陣できるような体格であった。

学問は近くの高僧に師事し、剣は一刀流の伊藤一刀斎の門人となって極意を授けられた。徳川將軍の御指南番となつた小野次郎右衛門忠明とは兄弟弟子の間柄であった。

天正十八年三月関東八ヶ国に風雲急を告げるや、小田原城主北条氏政より千葉氏に対し軍兵出陣の催促が来たので、

千葉介重胤は年僅か十五才であったので、海保、原、鏑木、木内等の執権職連名をもつて、上総、下総、常陸の千葉家随身の大小名等に対し緊急登城の令状を發した。

当時の千葉家は佐倉城主であったからこれ等の大小名は皆佐倉城に集まったので、皆佐倉城に集まったので、兵五十万を引率し小田原城に向つて進發したことを聞かされた、かつ北条家からの軍兵催促を申し渡されたのである。

この北条氏は先祖の早雲が伊勢新九郎と称し駿河の今川氏の食客であったが、大志を

仁王様を取って投げる

いざ伊豆に入り当時衰微していた足利氏一族の堀越公方を亡ぼし、直ちに謀略をもつて当時の小田原城主の大森氏を降して遂に小田原城主となつた。それから五代の間、関東八ヶ国に君臨し服従せざる大小名は領地をうばわれ殺りくされ実に非道であった。昔からの大小名は皆北条氏に対して面従腹背であった。小田原城の大広間に集まった大小名の会議も何回開いても決定線を出ることができずに終つたので、これを俗に小田原評定と云つて今なお関東一円にその言葉を残している。

一方関西軍の徳川家康は秀吉と黙約があったので房総の大小名に対し徳川側に帰参を入り大いに土木の工を興して

大須賀氏、原氏、押田氏、土氣、東金の両酒井氏等も、多きは五千石、少きは千石を与えられ徳川氏の直参となつた。

ここに三吉の父である丹波守英氏も徳川方の巧みな勧告によって遂に帰参し、城地は元のままで寺台城主、領地は下総国内及び旧領の上総国屋形村で、都合四千石を給わり徳川氏の直参となつた。

このような訳でさすがの北条氏も遂に五代八十年で、天正十八年七月氏政は自害、その子の氏道は城を明渡し滅亡した。同年八月一日徳川家康は秀吉と約束通り関東八ヶ国を給わり、扇谷上杉氏の家臣太田道灌の築城した江戸城に入り行くことを聞き、一兩日

にして今の静岡から部下を率いて来て家康の警護に万全を期したと云うから行動も非常に機敏であったのである。

三吉は成田不動尊を常に信仰しており不動尊から金剛力を授かったと言ふ。ある日、未明不動尊に参詣したとき大の男が道をふさいで過ぎなかつたので、三吉は立腹して田の中へ投げ入れた。その時かの男が口を開き「我は成田の仁王なり。汝の心を引見んためこれまで来れり。なお行衛を守るべし」と言つて御姿は見えなくなつた。仁王を投げこんだ田を仁王免と名づけ三吉より新勝寺へ寄進し今日まで伝わっている。(未完)

(海保忠氏特別寄稿)